

近代仙台研究会 第11回発表会

申し訳ございません
「満席」になりました



農林中央金庫ビル 昭和20年(1945年)太平洋戦争末期の7月10日仙台市は米軍により大空襲を受け、市中心部は焼野原になりました。東北最大の被害を受ける中町通りと東三番丁のかどにあった、農林中央金庫ビルは焼失を免れ、戦後復興のシンボリックな存在となりました。昭和13年(1938年)、大蔵省が設計したルネッサンス様式デザインは、多くの市民に愛されていました。しかし平成18年3月(2006年)、市民から保存、活用の声がありましたが、惜しまれつつ解体されました。 絵・文 小野寺純一(会員・画家)

日時 2026年(令和8年)2月27日(金) 午後3:30～7:10 (3:00開場) (3:10～総会)

場所 東北工業大学地域連携センター・テクロビ
(仙台市青葉区中央4-4-19 アーバンネット仙台中央ビル5F)

発表テーマ(発表順)

3:30pm 開会挨拶

- 木村紀夫 戊辰之役殉難藩士 弔魂碑
- 崎山俊雄 (仮)戦前期における宣教師の住まいについて—古写真に見る—
- 岡本勝壽 「楽都仙台ジャズ100年」サッチモを偲ぶメモリアル・セレモニー開催の道筋
- 庄子晃子 工芸指導所と東北工芸協会
- 伊藤正浩 ベーブ・ルースの来日初ホームランボール落下地点考
- 佐々木伸 泉市誌が否定したタウトの日記—山の寺洞雲寺—
- 大沼正寛 仙台政府倉庫・追録
- 大和晴彦 東北最古のゴルフ場とその後について
- 斎藤広通 定禅寺桜について
- 加藤幸子 (仮)ユネスコ会館建設の光と陰
- 三上満良 連句と俳石の同人誌『遊』に載るもうひとつの「石遊び」
これも仙台発祥! 小石掬いゲーム“玉戯”とは
- 庄子喜隆 写真で見る昭和53年の東一番丁

各自10分で発表、その後質疑応答5分。途中休憩あり
開会挨拶・諸連絡/7:10終了予定/7:30頃 懇親会



近代の仙台を中心とした建築、工芸、歴史、文化に対する理解と研鑽を深める研究会を2016年(H28)1月に立ち上げました。この度第11回目の「発表会」を東北工業大学地域連携センター「テクロビ」で開催致します。戦前、戦後の仙台をご存知の先輩方や、関心をもって研究されている方々の成果の発表を通し、多世代との交流を図りながら未来へと継承していきたいと思ひます。興味のある方々の参加をお願い致します。

会長 大沼正寛

参加申込 事前にメールでお申込み下さい。定員40名、～2/20(金)

資料代 1,000円 (発表内容の報告書。必要) 方は当日お求め下さい)

↑「昭和100年」について会員が執筆したページを含む

近代仙台研究会
kihakougei70@gmail.com
090-4633-9570



フライヤー